

新年の



美郷町長
松田知己

明けましておめでとうございます。気象経過並びに社会情勢ともに振幅が大きかった昨年を振り返り、改めて一年の短さを実感するとともに、記憶に残る出来事などを脳裏に刻み直し、清々しい新年をお迎えのことと存じます。今年こそ平穩を願いたいところです。

さて、美郷町にとっての昨年は、例年同様、意義の深い一年でした。将来を担う子どもたちが健やかに、そして逞しく育つ願いを込めた学校再編が、千畑小学校並びに仙南小学校の開校をもってすべて終了しました。統合された学校の活動を通じ、今後さらに「融和と前進」も具現化されていくものと期待しております。また、老朽化していた六郷幼稚園・保育園は新築し、すべての認定こども園で充実した施設環境のもと、幼児教育・保育を推進できる体制を整えめました。また、避難所となる大規模施設の耐震補

強についても、中央体育館並びに南体育館の補強工事をもってすべて終了しております。さらに、美郷町としての特色を深める取り組みについては、龍角散や日本航空（JAL）と連携協定を結んだほか、町のラベンダー「美郷雪華」を活用した商品の開発にも取り組んだ一年でした。

こうした取り組みを踏まえての平成26年は、行政目的で活用する二つの空き校舎改修を着実に推進するとともに、美郷町としての特色を一層はつきりさせていくため、連続性を意識したソフト事業の継続に注力してまいります。また、かねてより地域課題であった問題の解決にも取り組んでまいります。千畑地区においては、水道整備の要望が多い未普及地域について、水道整備の早期完了をめざして取り組みます。六郷地区においては、老朽化して破損を繰り返して

いる防火水道管について、水源の見直しも含めて抜本的対策に着手します。仙南地区においては、快適な利用環境を求められていた山本公園グラウンドの暗渠排水工事あんきすいこうじに着手します。そして、何より役場並びに役場職員が皆様から信頼される存在であり続けるため、細心の注意を払いながらミスのない適切な事務を推進します。

美郷町は今年11月、合併満10年を迎えます。町民各位が「美郷町」の名前を何かの折に耳にした時、そして目にした時、10年という時間経過にふさわしい「誇り」と「愛着」、そして「信頼」を心底感じられる町になるよう、今年も誠心誠意がんばってまいります。どうか、皆様には引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。



いよいよあじあじ



美郷町議会議長

高橋 猛

新年明けましておめでとうございます。一昨年の暮れに再び政権交代が行われ、デフレ脱却・経済成長戦略ということで、「アベノミクス」や「三本の矢」が昨年の流行語にノミネートされました。少しでも景気が上向くことを期待するところですが、皆様におかれましては気持ちも新たに新年をお迎えのことと思います。

昨年町では、小学校の統合、龍角散やJALとの協定締結、企業による空き校舎活用協定締結等、先を見据えた美郷ならではの新たな事業が展開されました。また、議会においては合併後3回目の改選が行われました。早いもので合併特例も最終年度となり、町の歳入の半分近くを占める国からの地方交付税の増額分は26年度で終わり、徐々に通常の算定に戻ることになりますが、健全な財政運営のもと、今後とも住民の負託にこたえるべく、より良い町づくりに向

けて研鑽を重ねてまいりたいと思います。

ところで昨年の10月24日、国の経済競争力会議において減反廃止が提言され、農家にとってT P Pに続いて衝撃を禁じ得ない出来事でした。

減反廃止もT P Pも大きな問題ですが、農村地域の将来を考えると、もっと深刻なのは農家の担い手の問題だろうと思います。今、農業従事者の平均年齢は68歳とも言われております。減反政策が始まった昭和45年当時、県は「1割減反、2割増収」これからは農工一体だと言われました。企業誘致が進められ、若者の労働力は勤めへと流れて行きました。確かに勤めの方が安定した収入を得られる時代もありましたが、今は年収200万円以下の労働者が6割を超える状況になって来ており、雇用環境は大変厳しい状況が続いております。両者の問題を考えた時、農業でも取り組みによっては、少ない面積

でも充分所得を上げられる作目・分野はある訳で、今一度農業のあり方を考えるべき時だと思えます。お手本は町内にも沢山あります。問題は意識を変えられるかです。

農業だけでなく様々な職業も同じであります。世の中は常に変化していてそれに対応していかなければなりません。ある意味では、常に逆風にさらされているのかもしれない。知事の好きな言葉は「B Y T H E W I N D」だそうであります。帆船の操舵用語で、帆船は帆の角度を変えることにより逆風の中でも風上に対し、45度の角度まで進むことができ、たとえジグザグでも目的地に向けて航海ができるそうです。知事曰く「秋田よ、風土に向かって走れ」ということですが、皆様にとりまして本年が、逆風ではなく追い風となる年でありませう。お願い挨拶いたします。